



Title	糖尿病看護認定看護師による糖尿病患者の血糖パターンマネジメント支援
Author(s)	水野, 美華
Citation	大阪大学, 2017, 博士論文
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/61615
rights	
Note	やむを得ない事由があると学位審査研究科が承認したため、全文に代えてその内容の要約を公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、 https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed 大阪大学の博士論文について

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

論文内容の要旨

氏名(水野美華)	
論文題名	糖尿病看護認定看護師による糖尿病患者の血糖パターンマネジメント支援
論文内容の要旨	
<p>【研究背景】</p> <p>2014年「厚生労働省 患者調査（傷病分類編）」では、糖尿病患者数は316万6,000人で過去最高となっており国民病と称されている。糖尿病治療の基本は、食事・運動・薬物療法とされ、これらは日常生活のなかで患者の自己管理に委ねられている。それらを評価する客観的指標の一つに血糖自己測定がある。測定した血糖値をパターンとしてとらえ分析する血糖パターンマネジメントは、スタンダードな教育内容の1つとして、米国糖尿病教育者協会が作成したコアカリキュラムでも取り扱われている。日本において血糖パターンマネジメントは、糖尿病看護認定看護師の特化技術として位置づけられ、教育プログラムにも含まれているが、血糖パターンマネジメントの実態や支援方法の研究は見られない。</p> <p>【目的】</p> <p>本研究では、糖尿病看護技術の一つとして確立しつつある血糖パターンマネジメントを活用した支援の明確化を目指し、日本の糖尿病看護認定看護師が行っている支援の実態について、第一段階として、現在の日本における糖尿病看護認定看護師の血糖パターンの実施状況および関連要因を明らかにすること、そして第二段階では、血糖パターンマネジメントを活用して支援を行っている糖尿病看護認定看護師の支援の在り様を明らかにすることを目的とした。</p> <p>【研究1】日本における糖尿病看護認定看護師が行う血糖パターンマネジメントに関する実態調査と関連要因の明確化</p> <ol style="list-style-type: none"> 方法 <p>2011年11月時点で日本看護協会のホームページ上に所属・氏名が公開されている糖尿病看護認定看護師303名を対象とし、個別指導の実施状況、血糖パターンマネジメントの実施内容、施設の状況などの項目について質問紙による調査を行った。各質問項目の回答として得られたデータは、単純集計し有効回答に占める割合を求めた。認定看護師の個人要因と施設の状況に関する項目については Pearson の相関係数および Mann-Whitney の U 検定を用い要因分析を行った。</p> <ol style="list-style-type: none"> 結果 <p>糖尿病看護認定看護師の血糖パターンマネジメントの実施率は、「血糖値の変化（パターン）を患者と一緒に探す」77.5%、「結果をもとに血糖値の肯定や変化の原因を患者と一緒に考える」85.0%など高い実施率であった。血糖パターンマネジメントを行う対象は、1型糖尿病、2型糖尿病ともにインスリン治療中で血糖自己測定を行っている患者を対象としている認定看護師は93.9%であり、インスリン治療を行っていないが血糖自己測定を行っている2型糖尿病を対象としている認定看護師は44.2%に留まった。認定看護師の個人要因と施設の状況に関する検討では、“血糖値や HbA1c 値の変化（パターン）を探すのは得意である”と“施設の医師は血糖パターン支援に協力的である”的回答における Pearson の相関係数は0.315で有意な関係にあった ($p=0.000102$、95%信頼区間[0.16、0.45])。さらに、“血糖値や HbA1c 値の変化（パターン）を探すのは得意である”は、看護師経験年数とは有意な相関がみられなかったが、糖尿病看護認定看護師経験年数との Pearson の相関係数は0.248で有意な関係がみられた($p=0.0024$、95%信頼区間[0.0879、0.3941])。</p>	

【研究2】糖尿病看護認定看護師による糖尿病患者の血糖パターンマネジメント支援の在り様

1. 方法

研究協力の承諾の得られた糖尿病看護認定看護師 11 名を対象に、血糖パターンマネジメントの支援の具体的な進め方、支援のポイントについて面接調査を行い、質的統合法（KJ 法）を用い分析を行った。

2. 結果

糖尿病患者への血糖パターンマネジメント支援について糖尿病看護認定看護師が語った内容について、質的統合法を用いて分析を行ったところ、412 枚のラベルから 8 つのシンボルマークが明らかとなった。

看護師は、血糖パターンマネジメント支援を行うにあたって、【前提となる支援と環境：本音を話せる場と自己管理への関心や動機の醸成】を行い、その上で【目標共有：患者の関心を探り、糸口を見つける】支援を行っていた。そして、実際に血糖値や HbA1c 値を活用できるよう【共同作業：効果的で負担の少ない血糖測定と記録の検討】や【共同作業：パターンを見つけて対策を練る】を行い、それによる効果を患者に感じてもらいつつ、【次につなげる支援：長期的展望とステップ・バイ・ステップ】を行っていた。同時に、これらの患者との共同作業による支援は、【協働環境：多角的な支援と一步踏み込んだ看護師の提案】によって成り立っている状況が語られた。

また、血糖パターンマネジメントは患者が糖尿病と付き合いながら長期にわたって活用していく必要があるため、【次につなげる支援：長期的展望とステップ・バイ・ステップ】を支える【主体的学習支援：体験の活用と思考を促す機会の提供】と【相互信頼：測定と記録の努力を労い、プロセスを支える】が行われていることが語られた。

【総括】

本研究を通じ、糖尿病看護認定看護師の多くが普段の支援の中で血糖パターンマネジメントを活用していることが明らかとなった。また、医師が血糖パターン支援に協力的であることが、血糖パターンマネジメント支援を行ううえで後ろ盾となり得る可能性が示唆されたことからも、物的・人的環境を整えることで、さらなる血糖パターンマネジメント支援の発展が望めると考えられた。

そして、実際に血糖パターンマネジメントの支援をどのように行っているか、その構造を明らかにすることによって、より効果的な血糖パターンマネジメントを行ううえでの示唆を得ることができた。これらの結果をもとに、血糖パターンマネジメントの普及に向け、検討を続けていきたいと考える。

論文審査の結果の要旨及び担当者

氏名(水野美華)		
	(職)	氏名
論文審査担当者	主査 教授	清水安子
	副査 教授	遠藤淑美
	副査 教授	神出計

論文審査の結果の要旨

【研究背景】

糖尿病治療の基本は食事・運動・薬物療法とされ、患者は日常生活のなかでの自己管理を求められる。それら自己管理を血糖値を中心に評価・修正を行っていく方法に血糖パターンマネジメントという手法がある。この方法はAADE (American Association of Diabetes Educators) が作成したコアカリキュラムでも取り扱われており、日本においても血糖パターンマネジメントは、糖尿病看護認定看護師の特化技術として位置づけられ、教育プログラムにも含まれている。しかし、この方法が臨床現場で実際にどのように活用されているのか、その実態は明らかにされていない。

【目的】

本研究では、血糖パターンマネジメントを活用した支援の明確化を目指して、【研究1】では、現在の日本における糖尿病看護認定看護師の血糖パターンマネジメント支援の実施状況および関連要因を明らかにすること、そし【研究2】では、血糖パターンマネジメントを活用して支援を行っている糖尿病看護認定看護師の支援の在り様を明らかにすることを目的とした。

【研究1】日本における糖尿病看護認定看護師が行う血糖パターンマネジメントに関する実態調査と関連要因の明確化

1. 方法

2011年11月時点で日本看護協会のホームページ上に所属・氏名が公開されている糖尿病看護認定看護師303名を対象とし、個別指導の実施状況、血糖パターンマネジメントの実施内容、施設の状況などの項目について質問紙による調査を行った。各質問項目の回答として得られたデータは、単純集計し有効回答に占める割合を求めた。認定看護師の個人要因と施設の状況に関する項目についてはPearsonの相関係数およびMann-WhitneyのU検定を行い分析を行った。

2. 結果

糖尿病看護認定看護師の血糖パターンマネジメント支援の実施率は、「血糖値の変化（パターン）を患者と一緒に探す」77.5%、「結果をもとに血糖値の肯定や変化の原因を患者と一緒に考える」85.0%など高い実施率であった。血糖パターンマネジメント支援を行う対象は、1型糖尿病、2型糖尿病とともにインスリン治療中で血糖自己測定を行っている患者を対象としている認定看護師は93.9%であり、インスリン治療を行っていないが血糖自己測定を行っている2型糖尿病を対象としている認定看護師は44.2%に留まった。認定看護師の個人要因と施設の状況に関する検討では、“血糖値やHbA1c値の変化（パターン）を探すのは得意である”は“施設の医師は血糖パターンマネジメント支援に協力的である”的回答および、糖尿病看護認定看護師経験年数において、それぞれ0.315(P=0.000102, 95%信頼区間[0.16, 0.45])、0.248

($p = 0.0024$, 95%信頼区間 [0.0879, 0.3941]) と有意な相関がみられた。

【研究2】糖尿病看護認定看護師による糖尿病患者の血糖パターンマネジメント支援の在り様

1. 方法

研究協力の承諾の得られた糖尿病看護認定看護師11名を対象に、血糖パターンマネジメントの支援の具体的な進め方、支援のポイントについて面接調査を行い、質的統合法（KJ法）を用い分析を行なった。

2. 結果

糖尿病患者への血糖パターンマネジメント支援について糖尿病看護認定看護師が語った内容について質的統合法を用いて分析を行ったところ、412枚のラベルから8つのシンボルマークが明らかとなつた。

看護師は、血糖パターンマネジメント支援を行うにあたって、【前提となる支援と環境：本音を話せる場と自己管理への関心や動機の醸成】を行い、その中で【目標共有：患者の関心を探り糸口を見つける】支援を行っていた。そして、実際に血糖値やHbA1c値を活用できるよう【共同作業：効果的で負担の少ない血糖測定と記録の検討】や【共同作業：パターンを見つけて対策を練る】を行い、それによる効果を患者に感じてもらいつつ、【次につなげる支援：長期的展望とステップ・バイ・ステップ】を行っていた。同時に、これらの患者との共同作業による支援は、【協働環境：多角的な支援と一歩踏み込んだ看護師の提案】によって成り立っている状況が語られた。また、血糖パターンマネジメントは患者が糖尿病と付き合いながら長期にわたって活用していく必要があるため、【次につなげる支援：長期的展望とステップ・バイ・ステップ】を支える【主体的学習支援：体験の活用と思考を促す機会の提供】と【相互信頼：測定と記録の努力を労い、プロセスを支える】が行われていることが語られた。

【結論】

血糖パターンマネジメントの効果や重要性に関する文献は多数みられるが、実際に看護師がどのように患者の支援に活用しているかについて研究されたものは国内外ともになく、本研究により新たな知見が得られた。中でも、【目標共有：患者の関心を探り糸口を見つける】や【次につなげる支援：長期的展望とステップ・バイ・ステップ】が明らかとなり、これまでの先行研究では言及されていなかった血糖パターンマネジメントを開始する際の糸口を見つけることの重要性や短期集中教育ではなく長期的な支援による血糖パターンマネジメントの活用が示されたことは、今後の血糖パターンマネジメント支援を発展させるうえで、重要な示唆を得ることが出来た。

また、研究1、研究2の両方において、医師をはじめとした多職種との協働が重要であることが示唆されたが、特に、研究1で、医師が協力的である施設で、看護師の血糖パターンマネジメント技術の自己評価がより高かったことは興味深い知見であり、この点も踏まえた教育プログラムを構築が必要不可欠である。

以上のように、本研究は、血糖パターンマネジメントの実践での活用を発展させるために重要な知見を得ることが出来たことから、博士（看護学）の授与に値すると評価する。